

予算決算委員会会議録

1. 開催年月日

令和2年 9月28日 開会 11時08分 閉会 11時35分

2. 開催場所

全員協議会室

3. 出席委員名

妹尾文彦	多賀信祥	柳原英子	山下憲雄
細羽敏彦	西村慎次郎	荒木謙二	柳井一徳
惣台己吉	三宅文雄	藤原浩司	上野安是
簀戸利昭	西田久志	三輪順治	大滝文則
宮地俊則	佐藤豊		

4. 欠席委員名

なし

5. その他の会議出席者

(1) 議長 坊野公治

(2) 説明員

副市長	猪原慎太郎	総務部長	山下浩道
健康福祉部長	佐藤和也	健康福祉部次長	沖津幸弘
健康福祉部参与	三宅早苗	財政課長	片井啓介
健康福祉部参事	原田恒司		

(3) 事務局職員

事務局長	和田広志	事務局次長	藤原靖和
------	------	-------	------

6. 傍聴者

(1) 一般 1名

(2) 報道 2名

7. 発言の概要

委員長（藤原浩司君） 皆さん、改めておはようございます。

少し早うございますが、ただいまから予算決算委員会を開会いたします。

初めに、副市長のご挨拶をお願いいたします。

副市長（猪原慎太郎君） 皆さん、改めましておはようございます。

本会議に続いての予算決算委員会でございます。引き続きよろしくお願ひしたいと思つて

おります。この委員会に付託されております案件でございますが、議案第71号令和2年度井原市一般会計補正予算（第7号）の1件でございます。皆様方におかれましては、慎重にご審議をいただきますようよろしくお願いいたします。本日はどうぞよろしくお願いいたします。

〈議長挨拶〉

〈議案第71号 令和2年度井原市一般会計補正予算（第7号）〉

〈歳入全般〉

委員（多賀信祥君） まず、新型コロナウイルス感染症の感染拡大ということで、臨時交付金に申請をするということではありますが、まず聞きたいのが、ここに出されている1つ目、県事業になるんですけど、小学校6年生までの対象者は自己負担なしです。一般的には、小学生までは2回予防接種を受けられるんですが、これは2回とも岡山県で見えていただけるということでしょうか。

委員長（藤原浩司君） 歳入の質問ですので、歳出でまたお願いいたします。

〈なし〉

〈歳出第25款 衛生費〉

委員（多賀信祥君） 改めまして、小学生までは一般的に2回予防接種を受けられるんですけど、岡山県のほうで2回とも見ていただけるということではよかったでしょうか。

健康福祉部参与（三宅早苗君） こちらのほうの小学生につきましては、県事業で2回まで接種のほうは無料でできるということでもあります。

委員（多賀信祥君） それから、事業の概要の「1 目的」のところに戻って、受診控えによってインフルエンザ予防接種の接種率の低下を懸念しているということで、接種率を高めて健康維持を図るということなんですが、実際過去のデータでいうと、今ここに該当されている方以外の罹患率というのは低いから意外とされないということなんでしょうか。言い方を変えると、ここに井原市が単市で行う補助事業の対象者が毎年罹患率が高いから、こういった対象ということになったんでしょうか。

健康福祉部参与（三宅早苗君） 対象者の罹患率については、市のほうでは把握するよう

なシステムにはなっておりませんので、その点につきましては不明でございますが、日本感染症学会の提言を受けまして、インフルエンザに罹患した場合に重症化しやすいというような定期接種の対象者である高齢者ですとか、妊婦に接種をしていただくということで、その環境を整えるという意味もあって、そのインフルエンザ予防接種の助成を行うということにさせていただいております。

委員（多賀信祥君） 目的が新型コロナウイルス感染症対策といいつつ、新型コロナウイルス感染症の流行も懸念される、同時にインフルエンザも流行すると医療機関が混乱をするということのを避けるという意味かと思っていたんで、対象者が本当なら全てがいいんでしょうけど、罹患率というものを精査をされてここに上げられているのかなあと思ったので聞きました。

もう一度聞きますけど、国の指導がこういった方々が重症化しやすいからということでここに上げているということですね。

健康福祉部参与（三宅早苗君） そうでございます。それとともに、中学校から18歳については、子育て支援の観点から助成をするということとさせていただいております。またさらには、その新型コロナウイルス感染症と区別が難しい発熱、感冒症状のある患者を減らすことによって、医療機関の負担軽減を図るということも目的とさせていただいております。

委員（惣台己吉君） 1点お聞きします。

65歳以上の人で今年からインフルエンザの注射をしようとした場合は年に2回、それから、3・4年前から毎年インフルエンザを打っておられる方は1回でいいという認識ですが、その認識は間違ってますでしょうか。

健康福祉部参与（三宅早苗君） 国の通知によりますと、13歳までにつきましては2回まで、それから13歳以上につきましては年一回の予防接種でいいというふうな通知がございます。

委員（西村慎次郎君） 2点聞かせていただきます。

まず1点目ですけれども、年齢制限、年齢の枠があるんですが、その基準日というのがありますでしょうか。

健康福祉部参与（三宅早苗君） まず、65歳以上の方につきましては、接種日において65歳というような年齢になっております。それから、中学生から18歳、この18歳につきましては、高校3年生年齢相当ということでございまして、中学生から18歳については、平成14年4月2日から平成20年4月1日生まれの方が対象となります。

委員（西村慎次郎君） ということは、65歳以上の方でいうと、例えば10月末に誕生

日を迎えられる方は10月中は受けることができないという理解になってしまうんですか。

健康福祉部参与（三宅早苗君） 自由に受けていただいてもよろしいんですけども、ただ、この助成の該当ではなくなるということでございます。

委員（西村慎次郎君） それはそのとおりです。

もう一つ、接種率が上がるということは、ワクチンが全市民に行き渡るのかなという心配があるんですが、そのあたりはいかがでしょうか。

健康福祉部参与（三宅早苗君） ワクチンについてになりますけれども、国の通知によりますと、ワクチンの製造予定量は4価ワクチンに変更された平成27年度以降で最も多いワクチンの製造予定量ということで、昨年度の消費量より約12%多いというようなこととされております。それを見越した上で、このたびの助成ということでございます。

委員（西村慎次郎君） 昨年度より12%多いということで、昨年度例えば接種率がどれぐらいで、それにプラス12%ある、余っているのもあるんで微妙ですけども、市民皆さんに行き渡るぐらいは確保できると見込んでいるという理解でいいですか。

健康福祉部参与（三宅早苗君） 昨年度の接種率についてでございますが、市が把握できるのは65歳以上の定期的予防接種の対象者の分だけでございまして、昨年度の接種率については接種者数が9,221人で、接種率が63.2%でございました。

ワクチンの供給量の見込みについてどうなのかというようなことでございますけれども、国のほうはそういうことで、ワクチンにつきましては優先的に接種対象者の接種機会を確保するために、10月1日から10月25日まで高齢者の接種を優先的にして、それ以降については妊婦、医療従事者、乳幼児等で接種を希望する者に早期の接種を呼びかけるというようなことをされてはおります。

委員（箕戸利昭君） 委託単価なんですけど、65歳以上は1件当たり5,148円、任意予防接種の委託料が1件当たり4,000円という、この違いはどこにあるんでしょうか、お尋ねいたします。

健康福祉部参与（三宅早苗君） 定期的予防接種の委託単価につきましては、毎年診療報酬の積み上げによりまして、例えば初診料、ワクチン代、手技料などを合わせたもので、医師会と協議をして決めております。

それから、それ以外の任意の予防接種の委託単価、このたびは1件当たり4,000円ということでございますが、これにつきましては、岡山県小児インフルエンザワクチン接種事業の委託単価、岡山県のほうと、それから岡山県内の医療機関が契約を結んだ単価でございまして、この単価でお願いしたということで、医師会のほうにこのたびお願いしたものでございます。

委員（簀戸利昭君） 65歳以上は初診料であるとか、いろいろ換算されるが、任意の方はそこら辺は含まれないということによろしいのでしょうか。

健康福祉部参与（三宅早苗君） 任意の予防接種につきましては自由診療になりますので、本来でありますと各医療機関で自由に料金設定ができるというものでございます。

委員（大滝文則君） 先ほどの提案説明で、取りあえず一般財源を使うけども、後から臨時交付金を申請するというちょっと分かりにくい表現があったわけですが、そもそも地方自治法等においては、予算の調製においては財源を確保された後予算を計上するということになっていると思うんですけども、ちょっと説明とそれと、話を聞いていても整合性が合わないような気がするんですけども、そのあたりはどういうふうに解釈をすればいいのかということをまず一つお尋ねします。

財政課長（片井啓介君） 事業費と交付金の総額の差ということをおっしゃられているかと思えます。国の交付金と……。

委員（大滝文則君） それとは違う、そんなことを聞いているんじゃない。

もう一回言いますけども、提案説明で、取りあえず一般財源を使って、その後臨時交付金を申請するという話があったんですけども、基本的に補正予算の調製においては、特に地方自治法等において財源が確保された後に予算を計上するような手順になっていると思うんですけども、取りあえず一般財源を使って後から申請するという、その表現が適切なんかどうかということをまずお尋ねしますと言っているんです。

財政課長（片井啓介君） 一般財源ということでございますけれども、このたびの第6号の補正で国の交付金の2次分につきまして、補正予算措置を先ほど議決をいただいたんですけども、今は国のほうから総額で7億円、8億円弱の交付金の通知をいただいております。それに対して、こういった新型コロナウイルス感染症対策事業として、それを財源として充ててやっているということでございます。それを仮にオーバーするとしても、財源調整部分の財政調整基金等、こういったものを充当し、総計主義的なものについてはクリアしているというふうに考えております。

委員（大滝文則君） 聞いたことと全然違うことを答えておりますので、これは多分同じことの繰り返しになると思いますので、やりますけども、皆さん分かっていらっしゃると思うけども、ちょっと元へ戻りまして、副市長と健康福祉部長が正副議長室へ説明に来られました。そのときには、財源は新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金を充当するという説明があったわけですが、その後の財政課との協議の中で、もう新型コロナウイルス感染症対策の臨時交付金はなくなって、もう使えないようになっているから、それこそ近隣市町のことも考えて、一般財源でせざるを得ないという話で、この一般財源に上

がっているとこっちは承知しておるわけですが、改めて聞きますけども、5月、6月、7月、この臨時交付金の事業名と、それぞれの金額をお示しいただきませんか。これを加えると総計は幾らになるんですか。

財政課長（片井啓介君） 令和2年5月臨時会、それから令和2年6月定例会で予算化をしておるもの、予算ベースで申し上げますと、まず医療機関従事者等へのマスクの配布825万円、スクールバスの増便の運行700万円、学校教育施設におけるマスク等の配布400万円、避難所等における感染防止対策800万円、水道基本料金減免、水道会計、簡易水道会計の補助金でございますが、9,800万円、妊婦・子育て特別支援金170万円、ふるさと井原からの学生エール便1,500万円、緊急雇用対策、市の会計年度任用職員雇用430万円、事務所等賃貸料補助金1億2,000万円、ミラサポ#チケットプロジェクト1,100万円、小・中学校への空気清浄器等の配備1,500万円、市立高等学校における遠隔学習環境整備825万円、教員用タブレット環境整備2,750万円、路線バス通学用の増車運行170万円、事業所等応援給付金2億4,470万円が6月までの補正分でございます。

委員（大滝文則君） 合計は。

財政課長（片井啓介君） 合計は5億7,440万円。

続きまして、令和2年9月補正分でございます。防災備蓄倉庫建設6,625万円、生産活動支援事業補助金9,000万円、販路開拓・販売促進支援補助金1,000万円、ワーケーション推進事業600万円、観光周遊促進事業補助金800万円、貸切バス利用促進事業補助金600万円、美星天文台環境整備事業6,200万円、病院官舎整備事業、病院会計への繰出金でございますが、4,576万円、水道の基本料金減免の期間延長4,900万円、このたびのインフルエンザ予防接種支援事業6,038万4,000円、このたびの令和2年9月補正の合計額は4億339万4,000円、合わせまして9億7,779万4,000円。

交付金のほうで申し上げますと、1次分が1億9,260万1,000円、2次分が5億9,478万9,000円、国の地方創生臨時交付金の合計が7億8,739万円、新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金、都道府県に交付されております原資を活用して岡山県が実施されます交付金につきまして7,200万円、歳入の総計といたしましては8億5,039万円となっております。

委員（大滝文則君） 執行残もあるからということでしょうけども、歳入から歳出を引きますと1億3,000万円程度のマイナスの臨時交付金の事業ということになっているので、いろいろそれは初めてのことでなかなか難しいけども、やはり井勘定みたいな予算編成

をしないように、しっかりと裏づけを取った財源、それから制度設計ということをお願いしたいということを申し添えておきます。

委員（三輪順治君） 今回の補正予算措置は誠に時宜を得たもので、私も適切だと思っています。そこでお尋ねいたしますけども、予防接種関連で、現在までに副作用、副反応で井原市が損害賠償を当該接種者に対して行った例がありますでしょうか。

健康福祉部参与（三宅早苗君） 予防接種事業で亡くなった例は……。

委員（三輪順治君） 亡くなるんじゃないしに、損害賠償を行ったもの。

健康福祉部参与（三宅早苗君） 今までに健康被害に遭われた方で、3例ございます。

委員（三輪順治君） このたびの国の交付金措置においても、やはり構造的には主体者である井原市が何かあったら全部責任を取るという理解でよろしいんですか。

健康福祉部参与（三宅早苗君） 定期の方につきましては、その健康被害に遭われた今までの方と同じように法律にのっとってさせていただくというようなことになろうかと思えます。

それから、それ以外の方の、通常でいけば任意の予防接種というようなものは、また別の制度で被害救済をする制度がございまして、そちらのほうの該当になろうということでおっております。

委員（三輪順治君） 仮定の話じゃいけませんけれども、その際の井原市の持ち出しは、どういうふうな負担率になりますか。

健康福祉部参与（三宅早苗君） 通常の定期の予防接種でいきますと、井原市の分については4分の1でございます。それ以外の任意の予防接種について、市の持分というものはございません。

〈なし〉

〈歳入歳出全般〉

〈なし〉

〈討論〉

〈なし〉

〈採決 原案可決〉

委員長（藤原浩司君） 以上で付託案件の審査は終了いたしました。

なお、委員会報告書の作成につきましては、委員長にご一任願いたいと思います。

〈異議なし〉

委員長（藤原浩司君） 閉会に当たり、執行部で何かございましたらお願いいたします。

副市長（猪原慎太郎君） 閉会に当たりまして、一言ご挨拶を申し上げます。

委員の皆様方におかれましては、慎重にご審議をいただきまして誠にありがとうございました。

10月1日から65歳以上の方への優先接種が始まるということでございます。日数があまりございませんけれども、最大限の効果が得られますようしっかりと啓発活動に努めていきたいと思っております。本日は誠にありがとうございました。

〈議長挨拶〉

委員長（藤原浩司君） 以上で予算決算委員会を閉会いたします。